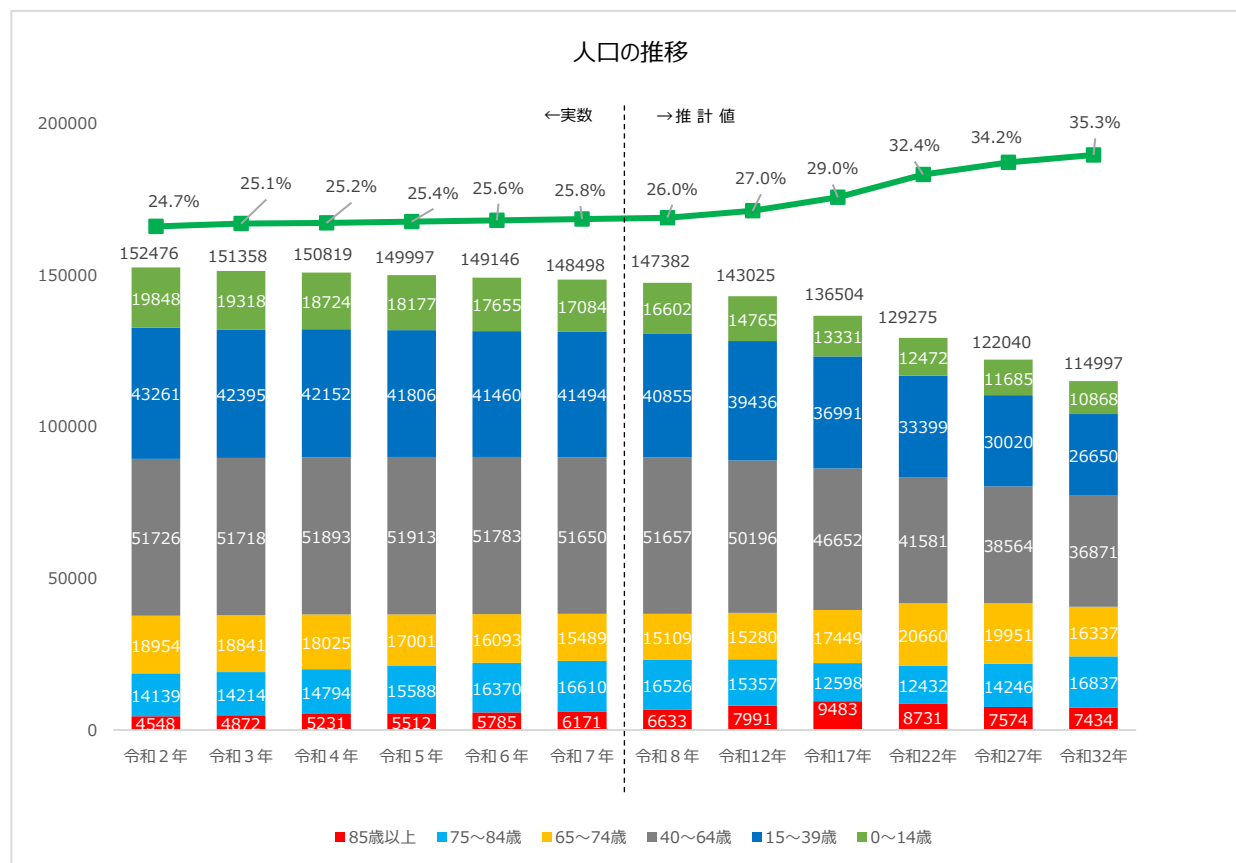


小牧市の現状と課題

1 小牧市の高齢者を取り巻く現状

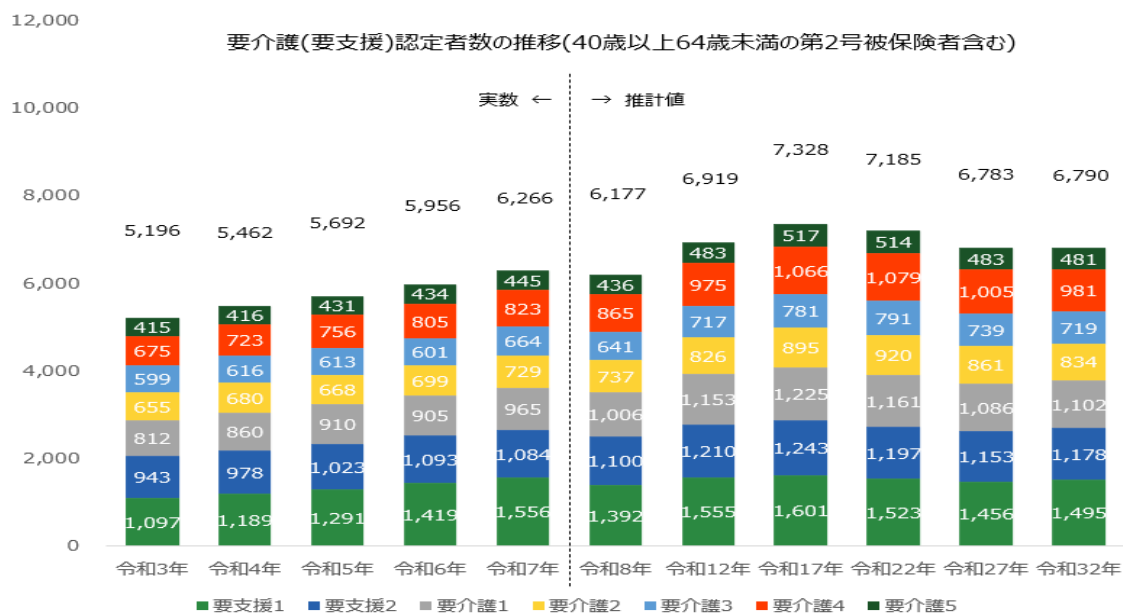
1 人口の推移



本市の人口は、年々減少傾向にあり、令和7年度実績では、14万8千余となっています。一方で、高齢化率については、25.8%となっており、後期高齢者の占める割合が年々、増加している状況です。

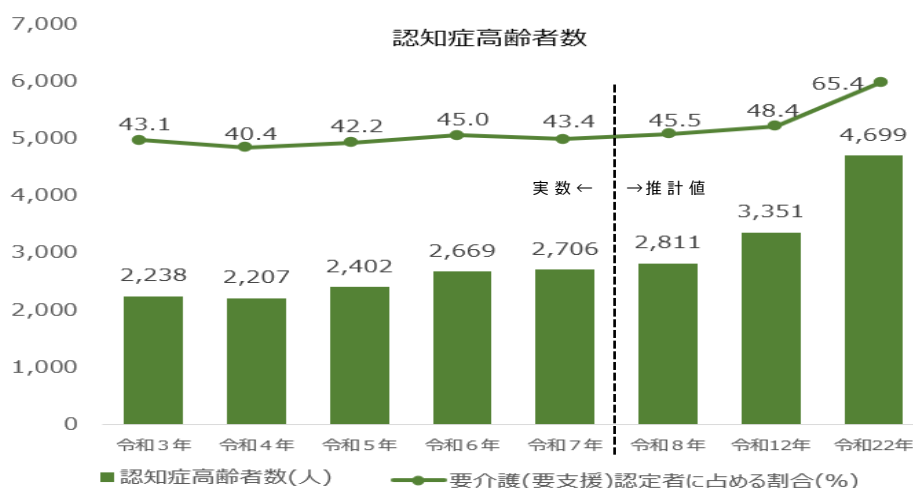
今後の見込みについては、依然として人口は減少していく中で、高齢者人口については、令和27年に減少に転じる一方で、後期高齢者数については、年々増えていくと予測されています。

2 要介護(要支援)認定者数の推移



第9期介護保険事業計画の策定した際に見込んだ要介護(要支援)認定者数と比較して、令和7年については200人以上増加しています。今年度、第10期介護保険事業計画の策定において、改めて、推計値については算出する予定ですが、要支援者の方が引き続き増加していく見込みです。

3 認知症高齢者数の推移



第9期介護保険事業計画の策定した際に見込んだ認知症高齢者数と比較して、令和7年については50人以上増加しています。今年度、第10期介護保険事業計画の策定において、改めて、推計値については算出する予定ですが、認知症高齢者の方が引き続き増加していく見込みです。

2 高齢者保健福祉や地域福祉に関する実態調査結果からみる現状

1 実施内容

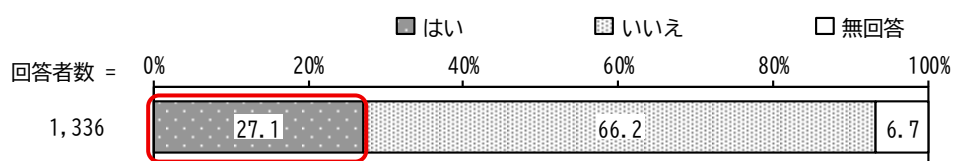
第10期介護保険事業計画を策定するにあたり、市民の生活状況や要望、地域福活動に関する状況等を把握し、計画の基礎資料とするために実施した調査。

区分	調査対象者	配布数	回収数
一般高齢者調査	65歳以上で介護保険の要介護(要支援)認定を受けていない方	2,000件	郵送 1,257件 WEB 79件

2 結果(認知症に関連する部分の抜粋)

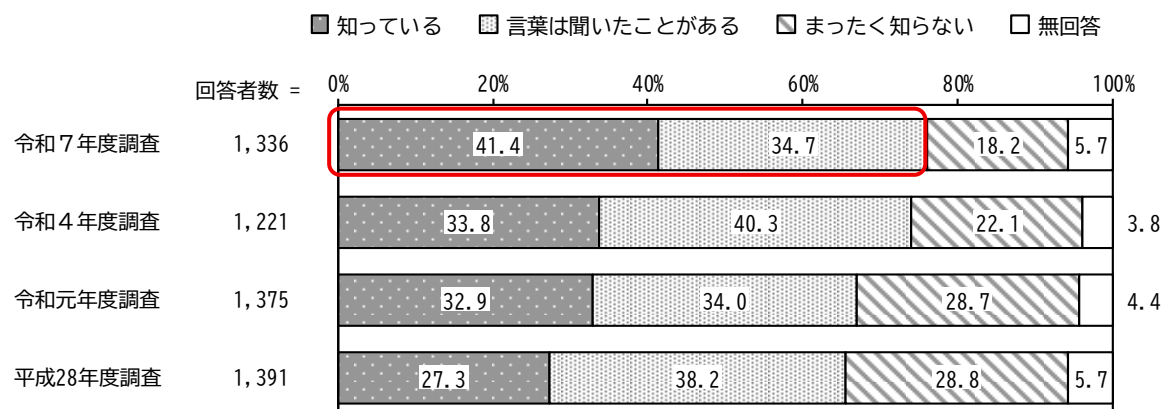
【認知症に関する相談窓口を知っていますか】

「認知症に関する相談窓口を知っていますか」について、「はい」が27.1%、「いいえ」が66.2%と「はい」を大きく上回っています。



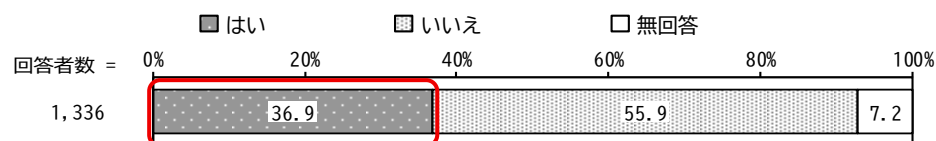
【地域包括支援センターを知っていますか】

「地域包括支援センター」を「知っている」が41.4%、「言葉は聞いたことがある」が34.7%となっています。経年の変化を見ると、「知っている」割合が増えており、認知度が上がっています。



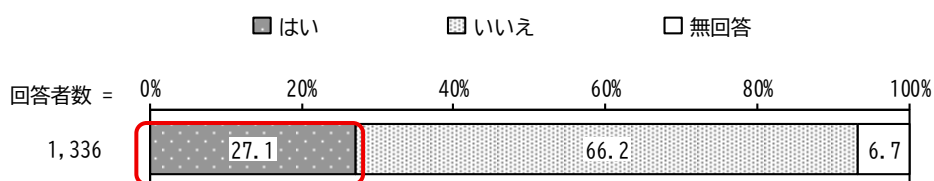
【物忘れが多いと感じますか】

「はい」が 36.9%、「いいえ」が 55.9%となっています。



【認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか】

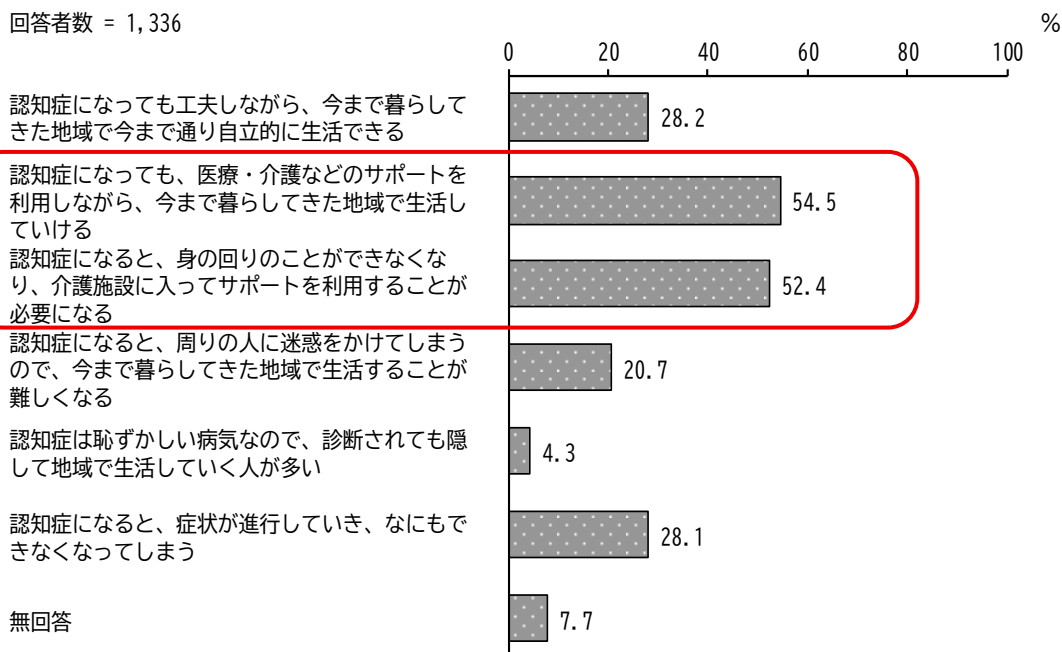
「はい」が 27.1%、「いいえ」が 66.2%となっています。



【認知症の人の日常生活についてどのようなイメージを持っていますか】

認知症になっても、サポートを受けながら今まで暮らしてきた地域で生活していける」が 54.5%、次いで「介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が 52.4%となっています。

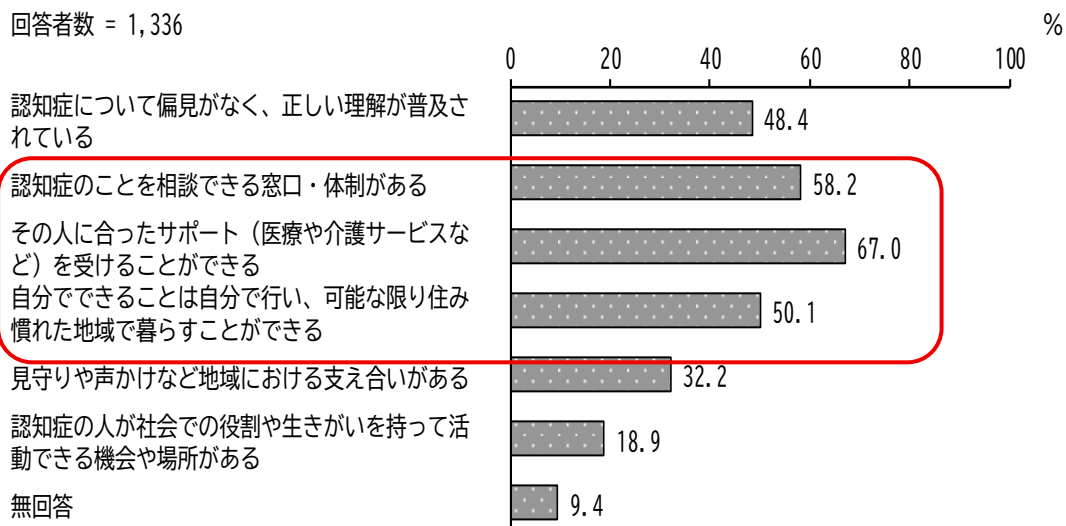
回答者数 = 1,336



【認知症の人にとって安心して希望を持って暮らせるまちは、どんなまちだと思いますか】

「その人に合ったサポートを受けることができる」が 67.0%と最も高く、「認知症のことを相談できる窓口・体制がある」が 58.2%、「自分でできることは自分で行い、可能な限り住み慣れた地域で暮らすことができる」が 50.1%となっています。

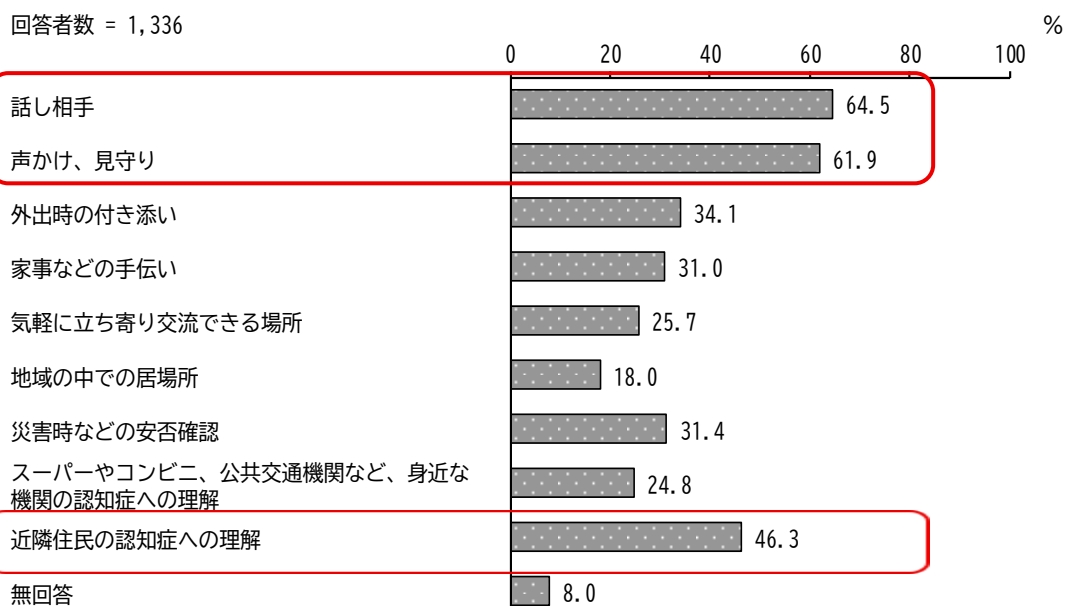
回答者数 = 1,336



【自分や大切な人が認知症になったとしても、希望を持って暮らし続けることができるために地域の支えとして大切だと思うことを教えてください】

「認知症になったとしても安心して暮らし続けることができるために地域の支えとして大切だと思うこと」は、「話し相手」が 64.5%と最も高く、次いで「声かけ、見守り」が 61.9%、「近隣住民の認知症への理解」が 46.3%となっています。

回答者数 = 1,336



3 ヒアリング調査からみる現状

1 実施内容

- ・対象：認知症本人、家族介護者、認知症カフェ参加者・ボランティア、一般高齢者、事業所スタッフ・地域包括支援センター等専門職、認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員、認知症サポート医。
- ・人数：合計 65 名（加えて、圏域会議・地域ケア会議の論点も参照）

2 主な声

■認知症本人の声

小さな希望

- ・お小遣いで好きなつまみを買いたい。トイレは一人で行きたい。旅行に出かけたい。昔畑をやっていたのでまたやりたい。

現状に満足

- ・デイサービスを使えてありがたい。認知症カフェは至福のとき。
（家族の支援やサービス利用ができているからとも想像される）

困りごと

- ・田舎は買い物が困る。銀行の口座からお金が引き出せないことが増えてきた。

■家族の声

本人の力を活かす

- ・自分でできることは自分でやってもらうようにしている。本人がやりたくてやっていることは継続できると良い。

サービス利用

- ・デイサービスの利用者の人数が多いため本人のことをしっかりみてくれていないのではないか。施設は料金が高いため難しい。

見守り・つながり

- ・介護している介護者の方も社会とつながりを持っている方がいいと思う。
- ・近所の人からしたら少し不審に見えると思うが、見守ってもらえるとありがたい。

- ・GPS を持たずに出かけてしまうこともあり、結局大事なのは住民同士のつながりだと感じる。

■一般高齢者の声

認知症への不安

- ・認知症のイメージが湧かない。
- ・認知症になった時自宅で過ごしたい。家族や周りに迷惑をかけたくない。
- ・認知症になった時にサービス利用ができるか、一人暮らしでの生活していけるか。

地域への期待

- ・周りに認知症の理解があると良い。地域でのコミュニケーションがあると良い。
- ・出かけられる場や手段があると良い。サービスや施設の利用など家族のバックアップがあると良い。

■支援者の声

- ・服薬管理、受診ができない食事の支度や火の取り扱いが心配。
- ・家族の理解不足、老々介護、働きながら介護する家族への支援など難しさがある。

4 現状からみえる課題

1 認知症の人に関する国民の理解の推進等

- ・高齢化の進展とともに認知症の人が増えることが予測される中、「認知症になっても、希望を持って自分らしく、共に生きる仲間として暮らせる社会」の実現に向けて、社会全体の意識づけを進めていく必要がある。
- ・認知症のイメージが湧かないなど、認知症に関する具体的な理解が十分に広がっていない状況がうかがえる。認知症を身近なものとして捉え、「新しい認知症観」を含めた正しい理解の普及啓発を一層推進する必要がある。

2 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進、認知症の人の社会参加の機会の確保等

- ・認知症になったとしても安心して暮らし続けるためには、話し相手や見守りなどの身近な支えや、近隣住民の理解促進が重要であるとの声が多い。地域における支え合いの促進とともに、認知症の人が社会の中で役割を持ち続けられる環境づくりを進める必要がある。

3 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

- ・認知症の人の意思が尊重され自らの意思に基づいた生活を継続できるよう支援を進め、権利侵害の防止に取り組む必要がある。

4 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等、相談体制の整備等

- ・地域包括支援センターの認知度は高まりつつある一方、認知症に関する相談窓口の認知は十分とは言えない。認知症の人や家族が、初期段階から身近な場所で気軽に相談でき、適切な支援につながるよう相談窓口の周知を図る必要がある。
- ・認知症に関する相談やサポートを受けられることは、本人や家族が希望を持って安心して生活することにつながる。日常生活上の課題に対応できるよう多様な主体が連携した支援体制を充実を図る必要がある。

5 認知症の予防等

- ・認知症の発症を遅らせ、進行を緩やかにするための予防に関する取組が行われているものの、市民の幅広い参加につながっていない状況がある。認知症予防ゲームなどの集団型の取組は参加者が限られる傾向があることから、日常生活の中で無理なく継続できる予防の充実を図ることが必要である。